

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-133	15-132
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>The Epidemiology of Alcohol Use and Alcohol Use Disorders among Young People in Northern Tanzania.</p> <p>タンザニア北部における若者の飲酒とアルコール乱用の疫学</p>		
<b>執筆者</b>		
Francis JM, Weiss HA, Mshana G, Baisley K, Grosskurth H, Kapiga SH.		
<b>掲載誌</b>		
Eur J Endocrinol. 2015 Dec;173(6):863-72. doi: 10.1530/EJE-15-0839.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
タンザニア、飲酒、若者、青年、乱用		26444441
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>飲酒は HIV 感染の危険因子であることも含めて世界的公衆衛生の見地から重要な問題となっている。タンザニア北部の若者における飲酒とアルコール乱用を調べた。</p> <p><b>方法：</b>キリマンジャロとムワンザにおいて 15 歳から 24 歳の若者 1,954 人を第 2 学校生、大学生、地場産業者、日雇労働者の 4 グループで横断調査した。層化無作為抽出法を用い人口統計学的特性、飲酒や生活習慣等を調査した。飲酒の程度は Alcohol Use Disorder Identification Test (AUDIT) を用い、飲酒の頻度評価は timeline-follow-back-calendar (TLFB) を用いた。</p> <p><b>結果：</b>男性の 47-70%が生涯飲酒あり、20-45%が現在飲酒あり、女性の 24-54%が生涯飲酒あり、12-47%が現在飲酒あり。ムワンザよりキリマンジャロで飲酒の割合が高かった。2 地域とも対象者はアルコール関連広告に触れる、実物を入手可能な機会に遭遇する等の経験が多かった。グループ間では、大学生では男性の 45%、女性の 26%が現在飲酒あり、多量機会飲酒は男性の 71%、女性の 27%。次に日雇労働者で多かった。男性は 11-28%で AUDIT が 8 点以上の高値であった。男性であること、交友関係があること、可処分所得が多いこと、イスラム教徒でないこと、性的パートナーの数が多いことが飲酒と関連していた。</p> <p><b>結論：</b>タンザニア北部の若者の間で飲酒は社会的な問題となっている。特に大学生と日雇労働者に対して、飲酒の開始を遅らせ、アルコールの乱用を減らす一刻も早い介入が望まれる。</p>		